

発明の名称: 大脳局所プローブ及び脳機能マッピング装置

利用・用途・応用分野

脳腫瘍・難治性てんかんの疾患の脳外科的治療、脳機能マッピング、医療機器

目的・課題

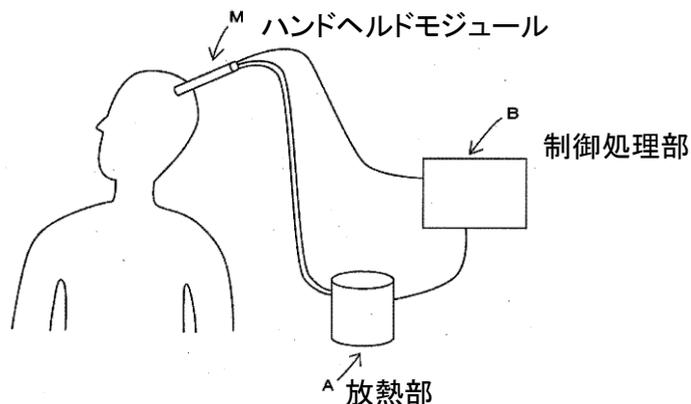
脳外科的治療を行う際に、患者の脳機能局在を評価(脳機能マッピング)することが重要。従来の脳機能マッピングは、電氣的刺激を用いて局所脳機能を評価、モニターするため、電気刺激により痙攣発作が誘発され、測定結果の解析で電気刺激強度の設定に起因するばらつきが生じる問題があった。

解決ポイント

本発明では大脳局所冷却プローブで脳機能マッピングする。大脳局所冷却プローブは、①筒状ケーシング内先端側に配設した冷却手段、温度検知手段を備えるハンドヘルドモジュール②温度検知信号に応じ局所脳表を所定温度に制御する冷却制御部で構成。
ハンドヘルドモジュール先端側を大脳局所に接触させ、脳表を冷却し大脳局所状態をモニタリングする。

研究概要・アピールポイント

大脳局所を冷却し大脳局所状態をモニタリングするため、従来の痙攣発作を誘発することがない。安全性、操作性も高い。



【大脳局所冷却プローブを用いて大脳の探査を行う状況図】

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp